

見直し・改善・バージョンアップ ～総合的な学習の時間の充実に向けて～

特色ある取組を行っている学校の工夫から学びましょう

特色ある取組を行っている学校には、総合的な学習の時間を充実させるために、様々な工夫があります。その工夫を参考に、「4つの秘訣」を考えました。その「秘訣」をもとに、校内研修等の時間を活用して、自分の学校の取組を見直してみませんか。



総合的な学習の時間を充実させる4つの秘訣

- 秘訣1 教職員のやる気をひき出す組織づくり
- 秘訣2 地域の特徴を生かした体験学習の構想
- 秘訣3 地域との信頼が深まる情報発信
- 秘訣4 成果と課題を次に生かす引き継ぎ



秘訣1 教職員のやる気をひき出す組織づくり

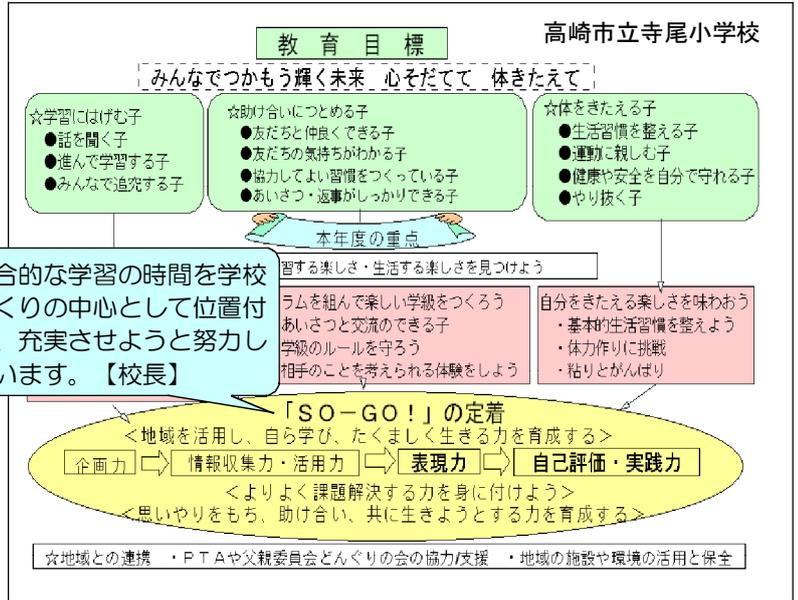
その1 校長・主任の姿勢で総合は発展します



わーい！ 校長先生もきてくれるよ！

活動に参加したり、職員や子どもと話をしたりして、学習内容の把握に努めています。これからも、充実した取組にしたいと思います。【校長】

自然や社会、人とのかかわりから学ぶ体験が力となります。工夫したまとめや発表から成就感や達成感が味わえます。自信をもって学習に取り組む子どもや時間を守れる子どもが増えてきました。【総合主任】



その2 行事計画に校内研修を位置付けます



先生も真剣だな。

校内研修で共通理解したことを研究授業で実践しています。職員の意識が高まり、よりよい学習となっています。【研修主任】

校内研修の時間を確保して、共通理解を図ったり、見直し・改善しています。様々な点が明確となるので、計画や準備がスムーズにできます。【研修主任】

研修の経過 邑楽町立中野東小学校

形態	研修内容
委員会	・18年度の研修の方向性 ・18年度のけやきタイムの計画案
委員会	・研究主題、副題の検討 ・研究の内容、研究の見直し、組織の検討 ・目指す児童像の検討 ・指導主事訪問について ・けやきタイムの年間指導計画の見直し ・自然体験活動の再検討
委員会	・前期指導主事訪問 ・一般授業および研修についての指導 ・前記指導主事訪問を受けての今後の具体的な取組 ・夏のフィールドワークについて
7/20 全体会	・今後の具体的な取組について 他教科等とのかかわりを入れた年間計画の作成 けやきタイム（総合）全体計画の見直し 目指す児童像の明確化
8月 学年別	・自然体験活動の再点検 ・他教科等のかかわりを入れた年間計画の作成 ・目指す児童像の明確化
9/6 推進委員会	・2学期の研修予定 ・後期指導主事訪問について
10/3 全体会	・2学期の研修予定 ・後期指導主事訪問、郡教育振興会公開授業について ・ブロックごとの児童像の見直し
10/4-7 10/12	・研究授業指導案検討会
10/19 全体会	・指導案検討会全体会

その3 教職員の得意を生かす役割分担



全職員が協力して教材研究や準備・下見を行っています。分からない事も、気軽に相談できるので、異動で来た職員も安心です。

自分が専門の教科や得意な分野を生かした、講座型の授業を取り入れたので、自信をもって指導ができます。また、生徒の要求にも応えられます。

前橋市立第三中学校

講座型授業のテーマ

「福祉って何」
「点字の仕組みを知り名刺を作ろう」
「ユニバーサルデザインと誰もが暮らしやすい環境」
「高齢者福祉について考えよう」
「児童福祉・福祉にかかわる動物について考えよう」
⑥ 「障害者スポーツとのかかわり」

<充実への手だて1> 総合的な学習の時間の趣旨を理解した熱意のある校長や意欲的な主任が校内研修や研究授業を充実させ、職員の共通理解を図ります。また個々の得意分野を生かす役割分担や協力・相談体制を整備し、職員全体の意識を高め、やる気を引き出します。

秘訣2 地域の特徴を生かした体験学習の構想

その1 地域や学校の特徴を生かす ～単元構想～

バリアフリーの校舎から、「福祉」について3年間学習できるような単元を構想しています。「社会に貢献する喜び」「優しさ」「感謝」「職業」「命」などについて、深く考えさせたいと思っています。【高崎市立塚沢中学校】



身近な地域の特徴から素材を見極め、育てたい力と体験を関連させます。



多々良沼や渡良瀬川など、身近な自然の中で、十分体験活動が行えるような単元を構想しています。そして、人間と自然や環境とのかわり方について、考えられるようにしています。【邑楽町立中野東小学校】

【邑楽町立中野東小学校】

その2 体験から学ぶ ～実感させる学習活動～

<感想とまとめ>
 僕は、この体験を通して、三つの事を学びました。
 一つは、障害者の方などを自立支援の力に介助することの大切さです。人は何事も出来ない人を助けてあげることの喜びをこの体験で学びました。
 二つ目は、お互いのコミュニケーションの大切さです。自分の生きたことのない時代の人の体験談や意見、そして笑顔など。今日の体験では得ることが出来ました。
 最後は両親の大切さです。
 職業の違いにしても僕等がやっているとよりかはるかに大変な仕事を毎日家族のためにやってくれている両親の大切さをこの体験を通して、学ぶことが出来ました。
 そして、これらの学んだことをこれから生きていく上で、少しでも役に立てれば良いと思います。

実感を伴った体験は感性を高め、生き方を考えるきっかけになります。

5日間の連続した体験は、1日の体験では気が付かなかったり、分からなかったりしたことに気付くことができ、とても有意義でした。



体験活動や施設の見学、人の話から、昔の人の生活を想像したり、自然の怖さと人々の様々な知恵を知ることができたりしました。驚くことが多かったです。



揚舟（あげぶね）の乗船や水塚（みづか）の見学などから、自然の怖さや水害とたたかった地域の歴史、人々の知恵などについて学びたい。

その3 学びを生かす ～生きる力をはぐくむ事後学習～

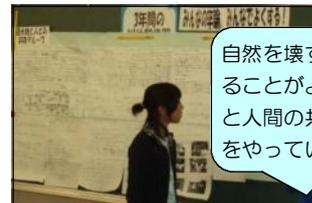
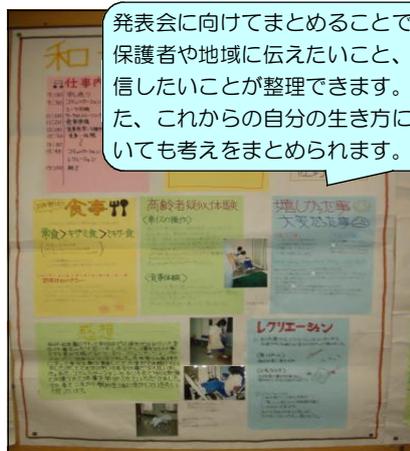
発表会に向けて、学習のまとめをすることで、自分の考えを整理できたり、友だちの考えを聞いて、自分の考え方を深めたり、広げたりします。



中間発表

友だちの考えを知ること、考えが広がり、深まったりします。自分の考えを整理するための参考になるので役立ちます。

発表会に向けてまとめることで、保護者や地域に伝えたいこと、発信したいことが整理できます。また、これからの自分の生き方についても考えをまとめられます。



中間発表

自然を壊すのも守るのも人間であることがよく分かりました。自然と人間の共存のためにできることをやっていきたいと思う。



友達と意見交流

<充実への手だて2> 育てたい資質・能力や目指す子ども像をもとに地域や学校の特徴を生かした単元を構想します。そして、地域の中で、実感を伴った体験活動を継続的に行い、中間発表会と意見交流の場を設定することで、考えを広めさせたり、深めさせたりします。また、様々な立場の人との交流から、生き方や知恵を学ばせたり、社会の仕組みに気付かせたり、自分自身の考え方や行動の仕方を振り返らせたりします。

秘訣4 成果と課題を次に生かす引き継ぎ

その1 学習の成果と課題を整理し、次年度に引き継ぎます



計画は朱書きをして、新・旧の学年の教師が打合せをしながら引き継ぎます。ワークシート等は学校のパソコンに保存します。



実践の成果と課題を学年会や部会で話し合い、ファイルに綴じて引き継ぎます。

個々の児童の学習の成果や学習を通して見取ることができたよさを個人カルテに記入し、次年度の担任に引き継いでいます。



1学期の指導主事訪問で出された課題を夏季休業中に見直し、改善しています。そのため、改善された2学期以降の計画で実践を行い、その成果と課題を次年度に引き継ぐ事ができます。



地域の要望や実践の成果と課題から、新たに「通学路安全マップをつくる」と「役原獅子」を取り入れました。

学年	学習内容
3年	○高山村の食を調べよう(30) ・高山村のいろいろな場所に行ってみよう(酪農、椎茸、りんご) ・高山村のよさを知ろう
4年	○高山村にぐんま天文台ができた訳を調べよう(30) ・環境を守る努力を考えよう ・宇宙って何だろう ○米作りと地域の暮らし(40) ・米作りの生活を米作りから考える
5年	○米作りと地域の暮らし(40) ・米作りの生活を米作りから考える ・収穫祭(役原獅子)をしよう(25) ・交通安全センターでお年寄りとの交流(15) ・交通安全サービスについて調べよう(村役場)
6年	○通学路安全マップをつくらう(10) ・通学路を点検し、危険箇所を調べよう

その2 各教科の内容との関連や学年間の系統性を明確にして改善します

国語科	社会科	理科	家庭科
調べたことを整理して伝え合おう	わたしたちの生活と食	種子の発芽と成長	わたしにできること
目的に応じた伝え方を	・米づくりのさかん	実や種子のできた	・簡単な調理をしてみよう
総合的な学習の時間と各教科の内容の関連を明確にした見直しを行ったことで、効率的な学習が可能になっています。	・これからの食料生産		・作っておいしく食べよう
			・ごはんのみそ汁をつくってみよう
			・どんなものを食べているだろう
			・バランスのよい食事をしよう



社会科の学習との関連から米づくりを取り上げたことで、教科の学習にも意欲的になっています。

各学年ごとの目指す児童像

学年	目指す児童像	具体的な手だて(方策)
1年	身近な遊び場に出かけ、自然とふれあう体験を通して、友達と楽しく遊べる児童	・活動のねらいを明確にし、助言や励ましを行いながら学習意欲が持続できるようにする。
3年	自然体験学習を通して、その生命力を知り、美しさや驚きを実感し、学習に取り組むことができる児童	・小グループで協力が必要な場面を多く設定して学習に取り組ませる。 ・体験活動のねらいを明確にし、一人一人が主体的に活動できるように工夫する。 ・助け合い、協力する活動体験を取り入れる。 ・自分の体験したことや考え、思いを伝え合う場を設定する。
4年	渡良瀬川中流を中心に、川や林の様々な自然体験を行うことを通して、自然のすばらしさや季節の移り変わりに気づき、体感したことをもとに、自然に対する自分なりの思いをもてる児童	・渡良瀬川中流域の季節の変化と川の中・川原・河畔林などの活動場所を生かした体験活動の工夫をする。 ・交流活動を取り入れて、一人一人の自然への思いを交流し合い、全体に広げていく。
5年	「川や林の自然体験」から自然のすばらしさ、不思議さを感じ取ることができる児童	・上流・中流・下流の特徴をとらえた、圧倒的な自然を感じる共通体験を工夫する。 ・課題別学習では、グループのテーマを明確にし探究活動に取り組ませる。 ・調べたことや考えを伝え合い、相手を意識した発信型のまとめをする。
6年	「川や人とのかわり」を自らの自然体験を通して様々な観点から調べ、考え、表現し、自然に対するかわり方への自分なりの思いや考えがもてる児童	・児童が進んで川と人間とのかわりを考えることができるような自然体験学習をさせる。 ・事前学習で本体験の課題を明確化する。 ・体験後の振り返りに役立つワークシートの内容や提示方法の工夫をする。 ・異なったお互いの意見を認めあえる学年集団づくりをする。

川で楽しむ、親しむの段階から多面的な見方や考え方ができるように、学年ごとの児童像や手だてを設定したことで、学年間の系統性を明確にした計画に改善することができます。

<充実への手だて4> 様々な機会をとらえ、学習の成果と課題を整理して、計画の見直し・改善を図ります。そして、確実に引き継ぎます。また、各教科等との関連を図ったり、学年間の系統性を明確にしたりするなど、多様な観点から計画の見直し・改善を行い、よりよいものにバージョンアップしていきます。

